

かわむら **こども** クリニックNEWS

Volume 24 No 7

276号

平成28年 7月 6日

かわむらこどもクリニック 022-271-5255

HOME PAGE <http://www.kodomo-clinic.or.jp/>

抗菌薬適正使用

院長

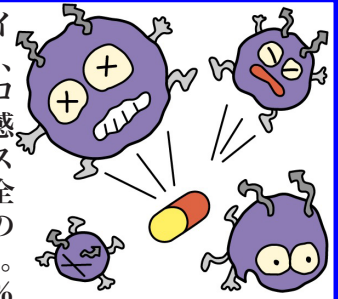
クリニックを熱や咳で受診したにもかかわらず、抗生物質（抗菌薬）が処方されずに不安に思ったことはありませんか。抗菌薬は、何に効くかご存知でしょうか。こんな質問をすれば、「風邪に効くに決まっている」と返ってきそうですが、「風邪には効きません」というのが答えなのです。今回は抗菌薬について考えてみましょう。

今年4月政府でAMRアクションプランが決定され、抗菌薬の使用量を2020年までに2/3にするという削減目標を示されました。病気に効くはずの薬なのに、何故減らさなくてはいけないのでしょうか。その鍵はAMRという言葉にあります。AMRはAntimicrobial resistanceの略で、日本語では「薬剤耐性」という意味です。薬剤耐性を簡単に説明すると、抗菌薬が効きにくい細菌のことで、耐性菌と呼ばれています。全ての抗菌薬が無効な「悪夢の耐性菌」が出現し、世界中で大きな問題となっています。

さてどうして耐性菌が生まれるのでしょうか。実は耐性菌が生まれる原因が、抗菌薬の使用と関係があるのです。難しい仕組みは省きますが、細菌と抗菌薬は戦い続けています。どんな生物も子孫を残すために生きていますが、細菌も同様に抗菌薬で殺されない子孫を生み出していきます。その結果どうなるのでしょうか。いずれ抗菌薬が効かない細菌によって、人類は危機に瀕するとまで言われています。ならばもっと細菌に効く抗菌薬を開発すればいいのにと、皆さんは考えるかもしれません。しかしながら様々な理由により、新しい抗菌薬の開発は暗礁に乗り上げている状況です。

それでは、どうすれば耐性菌を減らせるのでしょうか。その前に感染症について、ちょっとおさらいをしていきましょう。感染症というと、まず第一にあげられるのがカゼです。診療場面でも説明することですが、カゼというのは必ず咳や鼻水、熱がでるものをさす訳ではありません。鼻水だけ、のどの痛みだけの場合もあれば、鼻水、咳、熱までの時もあります。また「お腹のカゼ」という言葉があるように、下痢や嘔吐のこともあります。つまり、カゼというのはウイルスによって引き起こされる感染症と捉えています。さらにウ

イルスによる感染症として、インフルエンザ、麻しん、風しん、おたふく、ロタウイルスやノロウイルスもウイルスによる感染症です。当然ながらウイルスによる感染症には抗菌薬は全く効かず、効果が期待できるのは細菌による感染症のみです。カゼを含めた感染症の約90%はウイルスによって起こるので、抗菌薬が必要なものは僅か10%にすぎません。それにもかかわらず抗菌薬が投与されていることが問題視され、「抗菌薬の適正使用」との言葉もあるぐらいです。小児科医は、早くから「抗菌薬の適正使用」に沿って治療を行い、不必要に抗菌薬を処方する小児科医は“ダメ医者”とさえ呼ばれています。



こう説明すると、カゼで熱がでたとき抗生剤を出されたらと反論されることがあります。でもそれは小児科医が小児科以外の医師との見方の違いです。小児科医は病気だけでなく、子どもと一緒に診ています。病気だけ見れば、熱＝抗菌薬と単純に考えてもいいかもしれませんが、ところが子どもを診ている小児科医は、子どもの体への抗菌薬の影響も考えなければなりません。発育盛りの子どもの体には、できるだけ不必要なものはいれたくはありません。食品添加物を気にしている母親でも、抗菌薬に関してはあまり意識を持っていないことがあります。安易な抗生物質の投薬は、子どもの身体への悪影響だけでなく、ひいては耐性菌を増やすことに力を貸しているようなものです。

このままの抗菌薬使用が続くと、子どもたちが大人になる頃には全く抗菌薬が効かない菌に囲まれるかもしれません。そんな危ない未来を避けるためには、私たちは何をすればいいのでしょうか。我々小児科医は、抗菌薬の適正使用を厳密に進めていきます。皆さんは何をすればいいのでしょうか。まずは、抗菌薬に関しての理解を深めることです。たとえ熱が高くてもカゼには効果がないこと、体に入る異物は害を及ぼす可能性のあること、さらには「抗菌薬の適正使用」という言葉に意識を向けましょう。また医療機関に抗菌薬の処方求めないだけでなく、処方された場合には理由を確かめ、時には「抗菌薬はいりません」と言える賢い患者になりたいものです。

この記事は抗菌薬を使ってはいけないということではありません。病気を見極め適応がある病気にはしっかり使い、漫然とだらだら使い続けない。そして抗菌薬が不要な疾患には使わないということです。

政府が提唱したAMRアクションプランには、こんな意味があったのです。我々医療機関だけでなく、皆さんも協力して抗菌薬の使用を減らし、子どもたちの明るい未来のために「抗菌薬の適正使用」に取り組んでいきましょう。

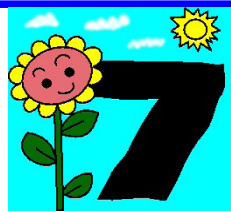
7月のお知らせ

- 医学部学生実習
8日(金)
ご協力をよろしく申し上げます。
- 栄養育児相談
13、27日(水) 13:30~
栄養士担当 参加無料

『がんばろう！熊本 がんばろう！日本』
“みんなでやれば、大きな力に”

読者の広場

先月は6通でしたが、クリニックF.Bページにもコメントがたくさん寄せられています。F.B.は誰でも読めますので、是非ご覧ください。青葉区の〇〇さんから思いがけない面白いメールを頂きました。「先週の金曜日に仙台医療センター 野呂先生をご紹介頂きました〇〇りさの母です。早速今日野呂先生に診て頂きました。川村先生のお言葉を最初に野呂先生にお伝えしたところ、お財布の中から大事にしているとむすび丸の名刺が。私のお気に入りですと川村先生の名前をりさに見せて下さいました。りさも緊張から驚き、笑顔になりました。先生からのお話はストレスや体調により子供は視力の低下が見られる事があるけれど徐々に回復するので大丈夫ですよと不安な思いを優しく引き受けて下さるものでした。8月に予約してきましたがそれまでの間にも焦らず待てる心の余裕を頂きました。川村先生、ありがとうございました。りさと一緒に私自身も診察を受けて来たと思います。川村先生、野呂先生に助けて頂きながら瑠紗の回復を待ちたいと思います。風邪などなければ7月にまた宜しくお願い致します。メールにて失礼致します。」言葉はよくありませんが、ちょっと物語になりそうなエピソードです。医療センター眼科の野呂先生は小児眼科が専門です。いろいろなところで出会っていて、昨年の学会のおむすび丸の名刺も差し上げていました。さすが小児眼科、子どもの気持ちをしっかり捉えた対応をしてくれました。「お母さんの不安・心配の解消」は当院の理念です。でもこれは子どもたちを診ている医師にとっては共通のものであります。以前「小児科医は子どもの病気の窓口」書いたことがあります。その窓口としての役割をちゃんと証明してくれたものです。他の病院では、こんなことはないはず。それが小児科医というものです。素晴らしい投稿ありがとうございました。



Facebookでは紹介済ですが、ちょっとした出来事がありました。6月下旬にクリニックと自宅の間の木に、鳥の巣を見つけました。鳥が巣を作るのは、卵を温めるためです。6月27日に鳥さんの留守を見計らって巣を覗いてみました。そうしたら、ありましたありました卵が4つ。その後も何度か巣を覗きましたが、かえった様子はありません。ここ数日鳥さんが留守をすることが多くなって、いよいよと思って5日に覗き込みました。すると、ヒナが生まれていました。



カメラを向けると親鳥と勘違いしたのか、大きな口を開けました。鳥が巣を作るのは縁起のいいこととされています。それより雨の中じっと卵を暖める親鳥の姿。生まれて大きな口を開けるヒナ。小鳥たちのために餌を運ぶ姿。そして夜は子どもたちの安全を確保しているようです。久しぶりに生命の息吹を感じることができました。この母鳥を見習う必要があると感じてしまいました。ヒナが巣立つまで、応援してください。



選挙に行こう！！

7月10日(日)は参議院選挙の投票日です。

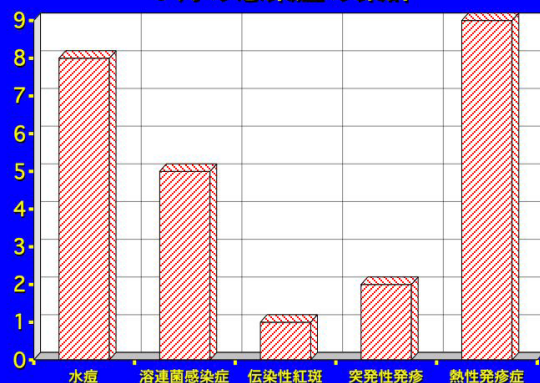
憲法改正の是非、安保法制が争点となっていますが、子育て中のお父さん、お母さんの問題は別のところにあります。子育てや少子化も、とても大きな問題です。現状の福祉は老人に手厚く、子どもには薄い福祉です。身近にある保育所待機児童、子どもの貧困も大きな問題です。医療も同じことで、将来的には自由に小児科にかかれぬ時代が来るかもしれません。

我々も子ども達の未来のために、大きな声をあげなければなりません。投票しても何も変わらないと思っている方も多いでしょう。でもよく考えてみてください。投票すれば変わる可能性があるのです。何もしないことは、自身の現状や子どもたちの未来を潰すことになるかもしれません。子どもたちの未来を守るために、何が必要で、何が大切なのか考えてみましょう。詳細はQRコードで！！



ふだん選挙に興味を持っていない人も、自分のため・子どもたちのため、是非投票に行きましょう！！

6月の感染症の集計



水痘は極端に増加し最近で最も多く8例でした。ワクチン接種をしていない小学生での流行です。おたふくはありませんでしたが、溶連菌感染症が5例と増加しています。目ヤニ(結膜炎)を合併する発熱、発疹を伴う感染症が多く、そろそろ夏を思わせる季節となりました。グラフには示していませんが、感染性胃腸炎が多く、市内の小中学校でノロウイルスによる集団感染もありました。本来冬に流行するノロウイルス感染症ですが、季節感がなくなっているようです。

Mail News, Facebook の紹介

Mail News は、560人を越えるお母さんが登録。下のQRコードから登録できます。件名を「登録希望」とし、登録者の名前とお子さんの名前を記載し送信してください。

その他の情報発信としてFacebookページ、YouTube、ブログにも取り組んでいます。最新情報はFBを見てください。Mail Newsが、かなり戻ってきます。届かない場合はkodomo-clinic.or.jpをドメイン指定して下さい。不明な点は受付まで問い合わせ下さい。



MailNews



Facebook

編集後記

抗菌薬は理解できたでしょうか。安易に飲んでいる薬も、別な見方をすれば恐ろしいものです。有効な抗菌薬を未来の子どもたちに大切に使う。それが重要なことです。鳥はムクドリのような。母親の子どもを守る姿にちょっと感動しました。参議院選挙しっかり考えてください。当日ダメな場合は期日前投票ができます。ご主人にも投票をお願いしてください。



K's clinic

麻疹風疹ゼロ作戦キャンペーン 『1才のお誕生日に麻しん風しん混合ワクチンを』『お母さんクラブ』現在会員を募集中です。参加希望は受付まで。！！